

熊本・阿蘇の国道57号「北側復旧ルート」「現道部」で開通！

熊本県阿蘇エリアの国道57号は平成28年熊本地震で被災し、阿蘇大橋地区の斜面崩落により長期にわたって不通となっていました。「現道部」の復旧を進めるとともに、新たに二重峠トンネルを掘削してミルクロードに沿う経路での「北側復旧ルート」（延長約13km）を整備しました。阿蘇地域の復興に大きな弾みがつきそうです。



2020年10月3日開通!!



活動報告



10/13 熊本天草間幹線
道路整備促進期成会からの要望



10/3 熊本県本部大会を開催

本田ゆうぞう プロフィール

情熱と行動で
活力ある熊本を!!



- 公明党熊本県本部幹事
- 一の宮小、一の宮中、阿蘇高卒
- 昭和57年九州電力入社
- 平成30年九州電力退社（勤続36年）
- 昭和38年6月5日生まれ



<https://hondayuzo.com>



本田ゆうぞう
HP

情熱 行動

熊本県議会議員 本田雄三
HP : <https://hondayuzo.com>

連絡先：県議会公明党 096-333-2645
MAIL : yuuzou303666@gmail.com

熊本県議会議員

情熱と行動で 活力ある熊本を!!
KUMAMOTO



本田ゆうぞう 議会NEWS

Kumamoto
for SDGs

情熱
行動
令和2年
vol.5

特集 令和2年9月定例会（9月24日）本会議一般質問



ごあいさつ

朝夕の寒暖差や紅葉の見ごろのニュースが報じられる季節になりましたが、皆さまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、9月定例県議会も無事に終了いたしました。私は、今回の議会で一般質問の場をいただき、6項目の質問と1項目の要望を行いました。

長期化する新型コロナウイルス感染症における、熊本県経済の活性化と自然災害の猛威への取組み、また、大空港構想の進捗状況等に対する県政運営について質問しました。

これからも小さな声に耳を傾け、県政に届けて参りますので、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

寒い季節を迎えますので、体調を崩されないようご自愛ください。



情熱と行動で未来をひらく活力ある熊本をつくる



令和2年9月定例会本会議一般質問

質問者
本田 雄三

2回目の一般質問を行いました!!

一般質問項目

- 大空港構想全般の進捗状況について
- 県内CO₂排出実質ゼロについて
- 阿蘇地域の野焼き作業軽減について
- 熊本県観光復興の推進について

- 災害に備えた道路周辺等の予防伐採の推進について
- 災害時等における教育支援体制の整備及び不登校児童生徒の現状について
- 路面標示の劣化に伴う改修について(要望)

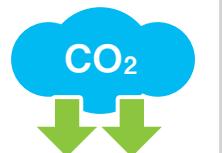
1 大空港構想全般の進捗状況について

- Q** 大空港構想は、多岐にわたる情報や判断が必要な大プロジェクトであるので、明確な司令塔とそのステージに合ったロードマップが必要。道路が後づけで整備され、慢性的な渋滞で交通の利便性が確保できていない空港周辺の新たな産業集積やインフラ整備も見据えた大空港構想全般の進捗状況を尋ねる。
- A** 各事業を進めるに当たり最大限の効果を得るには、関係機関の実施状況や関連する情報を把握しながら、全体としての計画性を高めていくことが重要。庁内でさらに連携して、引き続き取り組んでまいる。



2 県内CO₂排出実質ゼロについて

- Q** 昨年、11月定例会で知事は、2050年県内CO₂排出実質ゼロを宣言された。現時点で排出量の多い産業部門に関しては、エネルギー調達方法など、国や地方公共団体が規制することは難しいが、再エネシフトにより、何らかのインセンティブを付与できるような仕組みづくりも必要ではないか。
- A** 今後、専門家チームから意見を頂きながら、議員御提案も含め事業者が意欲的にCO₂削減を進めることができる取組みを展開してまいる。



3 阿蘇地域の野焼き作業軽減について

- Q** 阿蘇の野草地面積は、1905年当時と比較すると、約100年で半分以下に減少。熊本地震や豪雨災害により、林道や牧道は崩落等で通行が困難な箇所が散見されるなど、野焼きの継続は難しい状況。野焼きの作業負担の軽減、さらには、草原の維持、再生に向けたこれまでの県の取組みと今後の施策の方向性について尋ねる。
- A** 県では、平成25年に草原再生に向けた県の基本指針や、具体的な取組みを定めた「かばしまイニシアティブNext」を策定。今後も、市町村、牧野組合等関係者と連携し、阿蘇の草原の維持、再生に向けて取組みを進めてまいる。



4 熊本県観光復興の推進について

- Q** 国道57号北側復旧ルートの開通など熊本地震からの復興事業が大きな節目を迎える本年秋を大きなチャンスと捉え、コロナ対策を講じ、仮称「熊本復興キャンペーン」を1年程度のスパンで実施していただきたい。豪雨災害の県南地域は、復興後に時期をずらして実施。今後の考えを尋ねる。



- A** 阿蘇地域へのアクセスルートが回復するなど、観光面においても、これまでの経済損失を取り戻す大きなチャンスと考えている。適時適切に、より効果の高い誘客キャンペーンを実施し、観光産業の復興を加速化させていく。

5 災害に備えた道路周辺等の予防伐採の推進について

- Q** 豪雨や台風襲来による樹木の倒壊は、道路の通行支障、河川の流木による橋梁の落橋等、大きな被害につながっている。発災時に孤立集落を出さない迅速なインフラ復旧の支援を図る上から、道路周辺等における予防伐採についてどのように考えるか。



- A** 「ライフライン支障木の処理等に係る対策会議」を設置し、予防伐採等に関する検討を進めている。予防伐採については、地域での合意形成に向け市町村も交えた議論を進め、引き続き検討を深めています。

6 災害時等における教育支援体制の整備及び不登校児童生徒の現状について

- Q** 7月豪雨災害では、学校も使用不能になる甚大な被害の中、避難場所の学校に登校できるように配慮されたことに感動しました。将来、被災等が発生した際、同様の取組みができる支援体制の整備が必要。また、児童生徒の不登校に対する全般的な取組みや、起立性調節障害に対する周知徹底を尋ねる。



- A** 災害の規模や地域の実情に応じた教育支援が迅速かつ的確にできるよう、体制整備に取り組んでまいり。起立性調節障害に係る周知は、昨年度から各学校の保健主事等が参加する研修会や校長会議等において、症状や配慮事項を周知し助言を行っている。

7 路面標示の劣化に伴う改修について(要望)

- 今回の要望させていただいた理由は、郡部の方から小学校正門近くの横断歩道がほとんど見ないので、改善してもらいたいとの声をお聞きしたからです。交通事故の抑制は、安心・安全な街づくりの観点からも重要な要素であると考えます。その一つの手段である横断歩道を始めとした道路標示の維持管理については、的確な点検に基づき、定期的に改善がなされるよう県警察本部に要望します。



令和2年9月定例会